



## 話のひろば ベルリンに遊んで / 針ヶ谷 信\*

私が勤務している東京都では、職員研修の一環として海外研修を実施している。すなわち、海外研修希望者が毎年 10 名程度選ばれて、6 ヶ月の研修にでかけている。また東京都はベルリン市(西ベルリン)と協定して、2年に一度の割合で吏員交換を行っており、昨年からはニューヨーク市との間にもこの協定が取り決められた。私は幸いにもベルリン市との第3回の交換吏員として9ヶ月の出張を命ぜられ、先輩や友人からお前のドイツ語で大丈夫かなと危ぶまれながら、昨年の2月機上の人となったのであった。

### 1. ベルリン市にて

ご承知のとおり、ドイツは東西ドイツに分けられ、東ドイツ内にあるベルリン市もまたかの有名な壁によって東西ベルリンに分断されていて、東ベルリンはソ連の、西ベルリンはアメリカ、イギリス、フランスの共同管理下に置かれている。東側からの逃亡者を防ぐための壁を始めとして、鉄条網などが設けられ、厳重な警戒が行なわれているが、地下にトンネルを掘って、河を泳いで、あるいは地雷原と鉄条網を越えて逃亡が行なわれている。逃亡記事は毎日のように新聞紙上を賑わしており、不幸にも監視兵の銃弾に倒れる人も多い。東西間の国際状況が非常に敏感に身に感ぜられ、ベトナムの状況など

\* 正会員 東京都道路建設本部計画課

も大きく報道されている。

さて、私が一時的にその住民となったベルリン市と東京都との人口、面積を比較してみよう。東京都 23 区の内面積は 570 km<sup>2</sup>、人口 860 万人であるのに対して、ベルリン市(カッコ内は西ベルリンのみ)は 884 (481)km<sup>2</sup>、320 (220) 万人である。西ベルリンの地域内には湖などの水面が 30 km<sup>2</sup>、森林や公園が 95 km<sup>2</sup> もあり、緑豊かな都市で、市民は休日には散歩や船遊びなどを楽しんでいる。森の中には野生の兎やりすなどが遊んでいる。ドイツ人は、諸外国では動物が人間に馴れて人の近くに寄ってくるが、ドイツでは動物をいじめるから駄目だといっていたが、日本人はさらに反省の要がありそうだ。

市役所に出勤して皆の仕事振りを見るに、さすがにドイツ人らしく合理的にそして精力的に進めている。しかし仕事の量が日本に比較して少ないためか、ちょっとした図面はスミでトレースするなど、ゆっくりした面もみられたが、これはそういった技術助手が多勢いるからそうしている面もあるようだ。役所に勤めている人達の中には、本当の役人とそうでない役人とがいる。収入は少ないが、試験を受けまた講習や見習期間を経て役人としてのポストについて行く人と、役所のポストは係長程度までであるが自分の有している専門技術をもって働いている人とがある。後者は団体交渉権を持っていて、また勤務先の仕事量によって転勤するとのことであった。橋梁部では、計画と設計を担当している人達の多くが後者であり、工事の管理を担当している人達の多くは前者であった。市役所の勤務時間は7時半から17時までで、土曜日は休みであり、週末の金曜日は16時半までとなっている。朝が早いには驚ろいたが、通勤に1時間以上もかかる人はなく、東京のような通勤ラッシュもないので楽なようである。朝食は家で食べてくるわけだが、9時半ごろには家から持参したサンドウィッチ類を仕事の間に食べる。12時過ぎには役所の食堂で100円から150円程度の食事をする。食事が済めばすぐまた仕事であるが、食事時にビールなどのアルコール類をたしなむ人も多い。多くの人が1人1室か、せいぜい2人1室で仕事をしているので、アルコールを召して居眠りしている人もあるようだ。この建物にはどのくらい職員が働いているかと質問したとき、半分は眠っているから、働いているのは半分だとの返事をもらって目を白黒させたこともあった。

ベルリン市長は社会党の党主であり、もしも社会党が第一党となる場合には首相となるべき人である。この市長が市議会で演説した言葉のなかに、「われわれは構造物をつくるが、われわれはその構造物により影響される。構造物はその必要性からのみ考えられるのではなく、われわれは裸のアトラクションを欲しない」とある。各種

構造物はその環境に合うように、また美しい環境をつくりだすように努力されている。美しいということのほか、設計にまた施工に種々工夫がこらされているのを見て、われわれもいっそうの技術的努力をしなければならないと考えさせられた。日本には絶えず諸外国の最新の技術が紹介されているが、日本人みずからが考える努力をする時代なのだと思う。東京オリンピックに関連して、日本のこと、とくに東京について多く報道されていたが、東海道新幹線、モノレール、高速道路などの紹介もさかんで、日本人として嬉しいことであった。しかしそういった立派な仕事の蔭に貧しい諸施設があることを考えざるをえない。

工事の進めかたは、企画、計画から一般図と概算数量で入札し、請負った業者が設計計算と図面作製を行なう。計算と図面は役所でチェックされ、良しとなれば工事にかかる。役所の承認は担当者と係長、課長の3人ぐらいの署名ですむ。現場での仕事の進めかたは、鉄筋検査からコンクリート打ちの立ち合いなど、日本とほぼ同様である。

工事施工に際しては、まず用地問題があることは日本と同様で、橋はできたが取付道路上に家屋ががらびっている光景も見られた。裁判にかけてあらそう状態になると、解決までに数年かかる例もあるそうである。また戦災により各種構造物や埋設物の図面を焼失したため、工事施工上はもちろん、計画の段階において困難を感じているようである。ベルリン市における建設工事としては、まず住宅建設があげられるべきだろう。1年に2万戸の建設速度で行なわれているが、まだ戦災を受けた古い建物に住みその不便さを訴える人も多い。さらに将来の交通難対策として、道路と地下鉄の建設がある。一般の道路づくりのほかに、往復6車線の高速道路の建設も着々と行なわれており、路面電車で代るべき地下鉄網の整備も行なわれている。路面電車、バスそれから地下鉄の運賃は大差なく、相互の乗換え切符もあるので便利である。

## 2. 病院生活

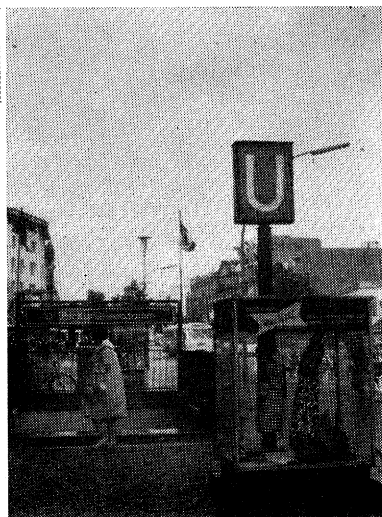
寒さのきびしい曇天の続く冬にベルリンに着いてから、やがて陽光のゆらぐ春になり、ドイツ語にも馴れて道行くドイツ人に道を教えてあげられるほどにベルリン化して、毎日の生活も落ち着いてきた。5月初旬に1週間ばかりハンブルク市を中心にして小旅行を試み、6月初旬にはさらにライン河ぞいに2週間ばかりの旅行を行ない、各都市の状況を見て歩いた。日本国内でも旅行は疲れるものであるが、馴れないひとり旅であったので過労となり、やがて病院生活を送ることになった。すなわち

旅行の終りごろから寝汗と胸苦しさがでてきて、寝付きが悪くなってきた。予定どおりベルリンに帰ってから2、3日して、昼間道を歩いているときに突然心臓の調子が怪しくなった。万病に対して安静が第一であると考えて、ただちに下宿に帰ってベッドに入ったがなかなか良くならないで、逆に夕方から痛みがでてきてそれが次第に増大したえられないほどになってしまった。日本にいればその初めの段階で医者の門を叩いていただろうと思うが、物馴れない外国でのこと面倒臭さが先に立って、ぎりぎりのところまでがまんした次第であった。隣室の青年に助けを求め救急車を呼んでもらって、夜中の12時過ぎ入院した。日本で良く街角で見掛ける救急車にベルリンでお世話になろうとは、誠に世の中はおもしろいものだなどと感じながら、たくましくドイツ人にたんに載せられて運搬された。

病院の宿直医は学生アルバイトのエジプト人であったが、今考えると心細い次第であったわけだが、そのときは医者顔を見て大変安心した。日本の医者がカルテに病状を記入するときは要所をドイツ語で記入する例が多く、患者に病状を知らせないためかと思うが、ドイツではドイツ語でしゃべっているため患者は良く自分の病状がわかる。私も、医者が脈が弱いとか、血圧が低いとかいっているのを聞きながら、注射を数本打ってもらったが、医者言葉から相当重大な病状にあるのを知ったわけである。

病院は完全看護でその点はひとり旅のこととて有難い次第であった。看護人には男と女がおり、もちろん看護婦のほうが多いのであるが、私のように絶対安静の男性の患者の身のまわりの始末は、すべて看護夫がやるわけである。看護夫がいなくてそれを呼びに行き、くるまで待たないといけないので、看護夫のいるときに始末する

ベルリン  
市風景



ように努力した。

今まで心臓病の経験はなく、せいぜい数日入院すれば退院できるのだらうと軽く考えていたのに、医者に6週間の絶対安静を申し渡されて誠に落胆させられた。そして、今後の厳重なる食餌制限や、過激な運動の制限を聞き、この病気の患者はノイローゼになる傾向が大きいことを知った。確かに私も意外に重大な病状と、外国で単身入院という環境のために精神の不安定をきたし、夜眠れない日が続いた。睡眠薬をもらって飲んだりして2週間後にはその状態を脱し得たのはありがたかった。

6週間経過してしばらく起き上る許可がでて歩く練習に入り、結局2ヵ月半の入院生活を送った。家族がおれば退院もかなり早く許されたことと思うが、独身では食事ごとに外出をしなければならぬことを考えて、病院のほうも退院の時期をのびたようだ。

退院と同時に郊外の保養所に移って1ヵ月体力の回復に努めた。保養所といっても実に立派なホテルと同様で、ただ食事がお客の希望によって、脂肪分の少ないものとか塩分の少ないものが出ることで、医者がいてレクリエーション設備が整えてある点がことなるだけである。一般の人も入所して医者に見てもらい、食餌方法とレクリエーションの行ないかたの指導を受けていた。この保養所は郊外の森林公園と湖の近くにあり、そこの近くには多くの病院が集まっている。

のんびりと散歩に明け暮れた保養所生活の後、出張期間の残り1ヵ月余をもって、ざっと当初予定した仕事を勉強したいと考えたのも当然のことだと思うが、これまた働く楽しみを味わうこと1週間にしてふたたび発作を

起こしてしまった。前回の発作のときと全く同様にして救急車で同じ病院に入院した。前回のときが2ヵ月半だったから今回は数ヵ月の入院かと心配したが、幸いにも軽い発作であったため、1ヵ月余で退院できた。ともかく日本に帰らなければと、最短コースの北回りで帰国した次第である。念のため飛行機に薬を用意してもらって、途中酸素吸入を受け、またその準備薬を飲んで無事に飛び続け、羽田の灯を機上から見たときは本当にほっとした。

諸外国の入院費はどのくらいか知らないが、ドイツの私の入った病院のは、1日3000円弱であった。もちろん上等の室に入れば倍以上の値段と聞いている。私は旅行前に生命保険と一緒に病気に対しても保険を掛けたので、安心して入院生活が送れた。病気になってから保険の契約条文を良く読んで見たら、入院に対しては70日までの契約になっていた。もう少し長期にしてなかったのは残念だったが、家族に送金を依頼する必要もなくて大変良かったと思っている。

帰国して再び入院して診断を受けたところ、完全に治っているとのことで、友人には女房の顔を見たら治ったのでしょとひやかされるが、安心した次第である。神経と心臓とは確かに密接な関係があるようである。

しかし、いくら図太い神経をお持ちのかたでも、また健康に十分自信のある方でも、馴れない外国生活では、自覚しない間に疲労するから、意識的に十分すぎる休養をなさること、念のために保険を掛けることをおすすめしたい。

(1965. 3. 30・受付)

明日の工事への貴重な指針となる		定評ある土木学会の報告書シリーズ		東京都新宿区四谷1丁目 振替 東京 16828 番
B 5判 692頁	日本道路公団編	関門トンネル工事誌	1500円(会員特価) 千200円	
B 5判 2356頁	日本道路公団編	若戸大橋調査報告書・工事報告書 <昭和39年度土木学会賞受賞>	30000円(千 共)	
B 5判 230頁	電源開発KK編	工事報告 大島セミアーチダム	1200円(会員特価) 千150円	
B 5判 予350頁	編集委員会編	工事報告 川俣アーチダム	1500円(予定価格) 8月刊	
B 5判 予550頁	九州電力KK編	工事報告 一ツ瀬安 杉 アーチダム	2300円(予定価格) 8月刊	
B 5判 予1400頁	関西電力KK編	工事報告 黒部川第四発電所	9500円(予定価格) 12月刊	
B 5判 予1000頁	編集委員会編	新潟地震調査報告書	未定(41年2月 出版予定)	

工事報告類の出版も学会ではお引受けしております。

ご希望の向きは土木学会編集課(351-5130)へご相談下さい。